

2019年度 一般入学試験（後期日程） 法学部 出題の意図

1. 実施状況

志願者数・合格者数

（法律学科）

志願者数	合格者数
24	3

（地域行政学科）

志願者数	合格者数
23	3

2-1. 法律学科 アドミッション・ポリシー

法律学科は、現実の社会において発生する様々な問題について論理的かつ合理的に考えることができる法的思考能力（リーガル・マインド）を持ち、さらにその能力をもちいて、これらの問題に対して柔軟かつ適切な解決策を導き出すことができる人材の育成を目指しています。そのため、特に以下の点について、十分な適性と意欲を持った志願者を求めます。

1. 社会の動きに広く関心を持っている人物。
2. 物事を柔軟かつ論理的に考え、それを的確に表現できる人物。
3. 高い志と正義感、忍耐力を有する人物。

A O型入学試験では、志願者の自己推薦ポイント（人間性、活動実績、将来への夢・希望など）が、これから法律学科で学んでいく上でどのような意義をもつかを、みなさん自身の言葉で明確に表現できることが望まれます。

2-2. 地域行政学科 アドミッション・ポリシー

本学科では、入学に対して、高校卒業程度の基礎学力を身につけていることに加えて、特に以下の点について適性と意欲を持っていることを望みます。

1. 地域社会の出来事から、広く世界の情勢にまで関心を持ち、常に問題の本質を見極めようと努力する人物。
2. 何事に関しても、しっかりとした自分自身の考え方を育てるように学習し、同時に、他者との意見交換を通して、議論を建設的に発展させ、異なる考え方からも学ぼうと努力する人物。
3. 将来、自ら選んだ職業を通して地域に貢献することを希望し、それへ向けての努力を厭わない人物。

地域行政学科は、行政・民間部門において政策を企画・立案し、実務に対応できる人材、より深い見識と広い視野を身につけ、地域社会の発展に貢献できるような人材の育成を目指します。

特にA O型入学試験において、私たちは高い志を有し、地域や社会の動きに目を向け、行動力を有する情熱ある志願者を求めます。

これまでの勉強や部活動で得たもの、あるいはこれからの夢を、自分の言葉で表現できる能力を高く評価します。

3. 出題の意図

法学部の一般入試（後期日程）の小論文は、法律学科と地域行政学科の共通問題である。両学科の求める人物像はそれぞれのアドミッション・ポリシーに記載されている。多少の表現の違いはあるものの、「社会の出来事に深い関心を持っていること」という点で共通している。

今回、社会問題に対する受験生の日ごろの関心の程度をみることを意図して1990年以降の衆議院議員選挙における投票率に関する問題を出題した。

これは受験生の資料を読みこなす能力を試すという目的もある。表を時系列で、または横断的（年代別）に読むことによって、そこからどのような特徴を見出すことができるのか。またそれを踏まえて、どのような事が言えるのか、高校生なりに自説を展開していただきたい。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

評価のポイント

①表を読むことができるか。（特徴を捉えることができるか。）

時系列に見ることで、全般的に投票率が低下傾向にあること。

横断面（年代別）に見ることで、「70歳代以上」を除き、高齢者ほど投票率が高くなること。

第48回衆院選より開始された20歳未満の有権者（受験生と同世代）の投票率が約40%となっていること。（これを高いとみるか、低いと見るかは、受験生の判断にゆだねる。）

②上記に①の特徴を踏まえて、自説を展開できるか。

①の分析の結果、どのようなことが言えるのか。切り口としては、シルバー民主主義（年金制度や介護保険、租税を通じた再分配政策）、若年者の政治的無関心、投票制度の在り方についてなど。

2019年度 一般入学試験（後期日程） 経済学部 経済学科 出題の意図

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
32	7

2. 経済学科 アドミッション・ポリシー

経済学科は、社会経済における諸問題に、目的意識を持ち意欲的に取り組む人材の育成に努めています。そのために、以下のような志願者を求めます。

1. 高等学校卒業程度の基礎学力を有する人物。
2. 経済・社会を含めた諸問題に関心がある人物。

A O型入学試験では上記に加えて、

経済・社会を含めた諸問題に強い関心を持ち、何らかの解決策を導き出すための「想像力・創造力・表現力」を有する人物を求めます。

3. 出題の意図

本試験は、高校までに培われた知識、とりわけ経済や社会に関する知識をもとに、問題文を正しく解釈し、問われている内容について、具体的かつ論理的に表現することを求めるものである。経済成長の要因は、単に経済に関わるものだけでなく、政治や地理的条件などさまざまな観点から挙げる事が可能である。その意味で、多様で多角的な視点をもち考察することができるという点もポイントである。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

経済に関わるものに限らず、当該内容に関わる具体的なキーワードを挙げ、それらと経済成長との関わりを論理的に考察し、表現できている解答を高く評価する。

2019年度 一般入学試験（後期日程） 経済学部 地域環境政策学科 出題の意図

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
17	2

2. 地域環境政策学科 アドミッション・ポリシー

地域環境政策学科では、経済の視点から地域と環境を考えることを通して、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献し、持続可能な社会を創造できる人材の育成を目指しています。そこで、本学科では、次の①～⑤について自らの言葉で説明できる志願者を求めています。

- ① 沖縄及び世界の経済や環境に広く関心がある人
- ② 沖縄地域の経済や環境を含めた、沖縄の過去・現在・未来に関心がある人
- ③ 様々なフィールド（現場）に出て、積極的に活動することが好きな人
- ④ 社会で起きている様々な事柄に関心を持ち、地域社会及び世界へ貢献したいという熱意のある人
- ⑤ 大学の授業に耐えうる基礎学力を有し、勉学に対する意欲がある人

特にA O型入学試験では、一般試験だけでは測ることが難しい多様な資質を有する学生を受け入れるため、コミュニケーション能力が高く、上記の①～⑤について自らの言葉で表現でき、学内外の活動に積極的に取り組んだ実績があり、それらの活動が、本学科で学ぶ上でどのような意味を持つのかを説明できる志願者を求めます。

3. 出題の意図

本出題は、少子高齢化による国内の労働力不足という状況を受けて、2018年12月、外国人労働者の受け入れ拡大を骨子とする、出入国管理法の改正法案が国会で成立したことを受けたものである。同法案をめぐって報道では、福祉、運輸、建設、サービス業等における労働力不足や労働条件の問題がクローズアップされるとともに、現行の制度下で外国人技能実習生やアルバイトの留学生がおかれた人権状況の問題が連日取り上げられた。本出題では、我が国が抱えるこのような状況について、どの程度、知識や関心があるか、また考察する力があるかを見る。なお、沖縄県内の特徴として、外国人労働者に占める、ネパールからの語学留学生の割合が非常に高いという特徴があるため、これを読み取るための資料を問題文に含めている。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

採点においては、外国から労働力が流入する（送り出し・受け入れ双方の）経済的背景と、沖縄の地域社会への影響について、知識、関心、考察の深さを、総合的に評価した。また、文章力（論理性、構成力、語彙力）や、データの読み取り能力について、基礎学力として評価の対象とした。また、個人的体験に基づく特に優れた考察がある場合や、沖縄の社会について積極的な未来像が示されているといった場合に加点を行っている。

2019年度 一般入学試験（後期日程） 産業情報学部 企業システム学科 出題の意図

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
34	9

2. 企業システム学科 アドミッション・ポリシー

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指し、「マーケティング」「経営」「会計」の3分野を柱に専門的、体系的に学んでいきます。よって、本学科では以下のような志願者を求めます。

1. 基礎的な教養を身につけ、自分自身のスキルや能力を鍛える意志を持っている人物。
2. 企業システム学科で学びたい事を自覚し、表現できる人物。
3. 大学卒業後のビジョンを抱き、地域・国際社会に貢献する意欲を有する人物。

さらに、学力だけでは計れない多様な資質を有する学生をAO型入学試験によって受け入れ、その資質を开花させるために必要な教育を通して将来のビジネス社会で活躍できる人材育成を行います。

AO型入学試験では、特に、次のような志願者を求めます。

- ①他者に誇れる活動や実績等を有している人物。
- ②企業システム学科で学びたい事を明確にアピールできる人物。
- ③大学卒業後のビジョンを抱き、自己研鑽ができる人物。

3. 出題の意図

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指している。この小論文の出題の意図は、そうした人材の育成を目指す本学科での学修にあたり、必要な能力を、受験生がどの程度持っているかをみることにある。本学科のアドミッション・ポリシーで求められている志願者像は、①基礎的な教養を身につけ自分自身のスキルや能力を鍛える意志を持っている人物、②企業システム学科で学びたい事を自覚し表現できる人物、③大学卒業後のビジョンを抱き地域・国際社会に貢献する意欲を有する人物である。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

この小論文では、まず、基礎的な教養がどの程度あるかをみている。ここでいう教養とは、国語の学力に加え、社会一般に対する普段からの関心の広さと深さを表す。次に、論点を整理して、論理的に表現できているかをみている。最後に、社会の問題を他人事としてではなく自分のこととして主体的にとらえ、解決しようとする意欲が伺えるかをみている。

2019年度 一般入学試験（後期日程） 産業情報学部 産業情報学科 出題の意図

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
18	5

2. 産業情報学科 アドミッション・ポリシー

1. 将来の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物。
2. 情報科学や産業・経済に興味があり、産業情報学科で学びたいことを明確に持ち、意欲的・主体的に勉学に励むことのできる人物。

A O型入学試験のアドミッション・ポリシー

産業情報学科では産業社会(経済・金融・企業経営など)の基本的なしくみと情報技術について学び、経済活動や日常生活と情報技術の深い結びつきを理解することで、個人が地域社会において果たすべき役割について認識を深めます。

理論と実践が融合したカリキュラムにより、あらゆる産業分野において情報化を推進する「産業の情報化」、情報技術を基に企業や産業の創出・発展を企画し実行する「情報の産業化」が担える人材の輩出を目標としています。

また、学力だけでは計れない多様な資質を有する学生をA O型入学試験によって受け入れ、個性に柔軟に対応した教育を行い、多元的な社会で活躍できる人材を育成します。A O型入学試験では、特に、次のような志願者を求めます。

- ①他者に誇れる活動を行った、あるいは行っている人
- ②産業情報学科で学びたい事を明確にアピールできる人
- ③大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人

3. 出題の意図

出題は、情報産業の中でも近年特に著しい発展を遂げ、産業界に強いインパクトを与えているAIについてまず例をあげ、その後、観光立県である沖縄がよりよいサービスを観光客に提供するためにAIの機能をどのように取り入れるべきかを考えてもらう問題である。実在するAI搭載機器にかかわらず、まだ実在しないが、あれば喜ばれると思われる機能を考えてもらい、それらがどのように役立つのかを利用者と観光提供者の立場から論理的に説明してもらうことで、基礎的な知識、思考力・判断力・表現力等の能力を見る。また、産業情報学科では、産業・経済に興味がある人物を募集しており、今後産業全体に深く関わってくるとされる情報テクノロジーのAI、ならびに観光産業で支えられている沖縄県について、どのような知識・問題意識を持っているかを記述してもらうことで、入学後、主体的に学習に取り組む態度や目的意識、そして動機を推し量る。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

身近に利用可能になった新しい情報テクノロジー（AI）が、沖縄の基幹産業（観光産業）にどのように影響を与えるだろうかについて、他者（利用者と観光提供者）の立場に立って分かりやすく論理的に記述することがポイントです。

2019年度 一般入学試験（後期日程） 総合文化学部 日本文化学科 出題の意図

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
20	4

2. 日本文化学科 アドミッション・ポリシー

日本文化学科は、日本文化及び琉球文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語学・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てていきます。

日本文化学科では、各種入学試験を通して、以下の各専門領域に強い関心を持つ志願者を求めています。

1. 日本語学、日本文学、日本の芸術・芸能
2. 琉球語学、琉球文学、琉球芸能
3. グローバル時代に求められる文化情報の発信技能・多様なコミュニケーションのあり方

特に、AO型入学試験では、以下のような能力、意欲をもった志願者を求めます。

- ① 批評・創作(小説、詩、書、絵画、演劇など)を含む広い意味での表現活動、琉球文化の継承発展に関する活動などの領域で優れた実績を上げ、大学生活の中で、さらに深めようとする人。
- ② 国語科教員、日本語教員、図書館司書(学校司書を含む)、司書教諭といった当学科の専門領域に関わる職業に深い関心を持ち、それを通じて社会貢献を目指す人。
- ③ 国際交流活動、ボランティア活動、課外活動(スポーツ、文化活動) などを通して広い視野を備え、日本文化、琉球文化、多文化間交流などの専門領域を深く学びたいという意欲を持つ人。

3. 出題の意図

日本文化学科では、アドミッション・ポリシーに基づき、3つの専門領域への関心の高さを評価するための試験問題を毎年出題しています。今年度は多分化間コミュニケーション・日本語学分野の問題を出題しました。問1は要約問題、問2は意見文問題となっています。問1では適切に情報をインプットし、それをまとめて伝える能力を測っています。また、問2では上記の分野への関心、そして論理的な文章を書く能力を測っています。どちらも、大学に入学し、学んでいく上で必要となる基礎的な知識技能である言語運用能力を問うています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

要約問題については、

- 1) 日本人の外国人が使う日本語への要求の傾向
- 2) 外国人日本語学習者にとって難解な日本語の例と、難解さが保たれる理由
- 3) 日本語が閉じられた言語であることによる影響

の3点が含まれていれば高い評価を与えています。

本文中で多く紹介されている事例を省き、問題提起→展開→まとめという流れをつかむことが重要です。

意見文問題については、多文化間コミュニケーションについての関心・知識、言語への関心・知識を持つ受験生ほどより深い考察ができる問題になっています。

a. 現状の日本語を維持することによるメリットやデメリット、

b. 現状の日本語を積極的に「開かれた日本語」に変えていくことによるメリットやデメリット、

などを、今後、より多くの外国人や外国出身の人が日本で生活するであろうことを踏まえて論じられると評価の高い意見文になります。

また、本学科で専門的に学べる日本語学・琉球語学、または比較対象としての世界各国の言語との関わりに触れることで、より高い評価が得られます。

2019年度 一般入学試験（後期日程） 総合文化学部 英米言語文化学科 出題の意図

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
18	3

2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. チャレンジ精神と意欲に満ちた人物。
2. 英語力の向上に積極的に努力する人物。
3. 英語圏の言語や文化に強い関心を抱く人物。
4. 他者とのコミュニケーションを大切にし、理想的な人間関係の構築に努力する人物。

英米言語文化学科は、言葉と人間との深いかかわりについて学び、言語や文化の多様性を理解することをモットーにして、世界の人々と対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実践的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指しています。

特に、AO型入学試験では、次のような学生を求めます。

- ①チャレンジ精神と意欲に満ちた人
- ②地域や社会活動に関心のある人
- ③語学と異文化理解能力を身につけ、国内外で活躍したいという志を持った人
- ④英検2級程度の英語力のある人が望ましい

* 二次審査では、日本語による面談のほか、英語による5分程度の面談も行います。

3. 出題の意図

英米言語文化学科は、世界の人々と対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実践的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指している。したがって、この学科の入学希望者には他者とのコミュニケーションを大切にし、理想的な人間関係の構築と英語力の向上に積極的に努力する人物を求めている。

次の英文は、国連食糧農業機関「2018年世界漁業・養殖業白書」について述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけでなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、それぞれの段落の要点を整理し、日本語で簡潔にまとめる力が求められる。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし

2019年度 一般入学試験（後期日程） 総合文化学部 社会文化学科 出題の意図

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
19	8

2. 社会文化学科 アドミッション・ポリシー

社会文化学科は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通りに具体化し、「沖縄」と「人間」について学ぶ意欲と関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人材を求めます。

1. 沖縄を理解するための知的好奇心と知的探求心をもつ人物。
2. 沖縄をとりまく世界の社会や文化の動きに深い興味と関心をもつ人物。
3. 沖縄をとりまく世界の問題と向き合うための基礎学力を有する人物。
4. 自らの問題意識のもと、フィールド（現場）に出て積極的に情報を集め考え判断し、主体的に行動することができる人物。
5. 国際交流・地域・ボランティア・文化・スポーツなど学内外の活動に主体性と協調性をもって取り組める人物。

A O型入学試験では、上記の5項目のうち、特に1、4、5の各項目を重視します。

具体的には、

○項目1については、「知的好奇心」や「知的探求心」を、大学生活の中でどのように発揮しようと考えているのかを説明できることを求めます。

○項目4、5については、これまでの実績を具体的に説明できることを求めます。

3. 出題の意図

社会文化学科は、学位授与方針において、「比較文化的観点に立脚し、フィールドワークに基づいた南島地域（沖縄及び周辺地域）研究の能力」の習得と、「地域理解能力と社会的コミュニケーション能力に長けた、問題解決型の人物」であることを学位授与の条件と定めており、その実現に向けて、入學段階で求める資質・能力を、上記の入学者受入方針の通りとしています。そのポイントは「沖縄」を理解するための好奇心や探究心を持ち、自らの問題意識に基づいて主体的に情報収集できることにあります。すなわち、沖縄に関する知識量の多寡だけを重視しているのではなく、地域に対する関心を持ち、課題をみつけ、その課題を解決するために自ら行動できることを重視しています。

そこで、一般入試（後期日程）では、高校における地域学習の課題という場面設定をしたうえで、自らの地域に対する関心、情報収集の主体性、自らの地域の事象に対する知識や理解度等を表現してもらう問題によって、上記のような資質・能力を確認することを意図しました。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

評価に際しては、問題文で求めた①自らが暮らす地域の文化現象を認識しているか、②なぜその文化現象をとりあげたかについての理由が明確か、③文化現象を理解するための情報収集の手段を把握しているか、④自らの地域の文化現象をどのくらい理解しているか、の4点に加えて、字数条件の遵守や回答文全体の論理性などを観点としました。

社会文化学科では地域に対する関心や地域を理解しようとする意欲が重視されます。したがって、日常から、沖縄や自らの地域に対して関心をもって、情報を収集し、自らの意見を構築することが重要です。

2019年度 一般入学試験（後期日程） 総合文化学部 人間福祉学科 出題の意図

1. 実施状況

志願者数・合格者数

（社会福祉専攻）

志願者数	合格者数
12	4

（心理カウンセリング専攻）

志願者数	合格者数
17	3

2-1. 人間福祉学科 社会福祉専攻 アドミッション・ポリシー

社会福祉専攻では、以下のような志願者を求めています。

1. 将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分であると認められる人物。
2. 社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物。
3. 将来、アジアや太平洋地域をはじめとする国際的な場における支援活動に参加することを熱望する人物。

上記に加えて、A O型入学試験では、以下のいずれかに該当する学生を歓迎します。

- ・社会的マイノリティーの問題を自分の問題として考えられる人
- ・グローバルな視点をもつ人
- ・知的探求心と批判的な思考力を培い、積極的に社会に参画したい人
- ・他者の個性、多様性に寄り添い、他者と一緒に社会の状況を正しく認識し、問題解決のためのスキルを身につけたい人
- ・リーダーシップを発揮できる人。また、自分や他者を肯定的に捉えることができる人
- ・他者と協調、共創するコミュニケーション能力を持つ人

2-2. 人間福祉学科 心理カウンセリング専攻 アドミッション・ポリシー

人間福祉学科心理カウンセリング専攻は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通り具現化し、人間のころろに関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人物を求めます。

1. 人間の「ころろと行動」と「人と人とのつながり」について学ぶ意欲と関心を持つ人物。
2. 大学で学ぶことに強い意欲と関心を持ち、自ら学び、常に自己研鑽、自己成長に努める人物。（自分を成長させようという意欲と態度を持つ人）
3. 人間のころろや行動の成り立ち、働きについて、心理学的な立場からの確に理解し、日常生活に実践的に応用したいという真摯な態度を持つ人物。

A O型入学試験では上記に加えて、

- ①人間のころろについて科学的な視点（実験・調査・観察・統計など）から学ぶ意欲のある人
- ②これまでに意欲的に取り組んできた活動や得意分野が、大学で学びたいことに結びついている人を求めます。

3. 出題の意図

人間福祉学科は、アドミッション・ポリシーに明示されている通り、大学で学んだ専門知識および技術を活かして社会に貢献したいという意思を持った学生を求めています。大学で学ぶ知識や技術は、具体的には、人々が直面している様々な社会課題に対してその背景をしっかりと分析したり、解決に向けて計画を立てて行動したり、人と人とのつながりを広げたりすることを促進する知識や技術です。これらの知識や技術を学ぶためには、国内外の社会問題に強い関心を持って研究することや、自ら社会参画する行動力が期待されます。

本問題は、以上のことを踏まえて作成しています。本問の出題意図は、現代社会の特徴に関する受験生の基礎知識、課題解決に向けた論理的思考力や想像力、ユニークな発想を確認することにあります。換言すれば、現代社会の特徴を客観的な視点から文章にできているか、また、課題解決に向けて自らの考えを論述することができるかを確認することにあります。こちらか社会課題を例示していませんが、それは、受験生の皆さんが日ごろから国内外の社会問題に強い関心を持つ人物であるかどうか確認するためです。そして、可能であれば、受験生が社会参画や社会貢献に対して積極的な人物か確認するためです。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

ひとりひとりの人生が尊重され、誰もが心豊かに生きる社会をつくるためにも、ぜひ、日ごろから社会課題に関心を持ち、新聞や関連文献を読む習慣を持つことをお勧めします。また、解決に向けて実際にアクションをおこすことをお勧めします。